愛川ふれあいの村　今月の風景

2024年6月　自然のたより

今年の関東の梅雨入り宣言は例年より遅くなりました。その間も夏の暑さが感じられましたね。村内では工事が落ち着き、6月1日から宿泊棟全棟が使えるようになりました。子どもたちの声が一段と大きく聞こえます。管理棟周辺の立ち入り禁止箇所もなくなり、工事の仮設事務所も取り払われました。昨年度秋以来の全棟利用、久しぶりの事務所前広場の様子。梅雨、真夏に向けて、より利用しやすくなった愛川ふれあいの村をみなさまには感じていただけるかと思います。生きものたちも工事が終わることを待ちわびていたことでしょう。（石川）

ユキノシタ

エサキモンキツノカメムシ

リュウキュウサンショウクイとバッタ

ハグルマトモエ

ムラサキシジミ

スジグロシロチョウ

強いアオメアブ

チャバネアオカメムシ

クヌギカメムシ

キマダラカメムシ

ラミーカミキリ

ホシハラビロヘリカメムシ

オナガサナエ

雌のキビタキ

モズ

トピックス　★夏至★

６月に入り、暑さも日に日に増して来ている今日この頃。例年に比べ、関東の梅雨入りも１週間ほど遅いとニュースになっていました。

そんな中、今年の『夏至』は６月２１日です。

『夏至』とは二十四節気の一つで、「北半球において太陽の位置が１年で最も高くなり、日照時間が最も長くなる」日のことを意味します。

『夏至』は暦の上で夏の真ん中を指しており、夏があれば、春・秋・冬にもあります。春は『春分』、秋は『秋分』、冬は『冬至』となり、夏と同じでそれぞれの季節の真ん中を指しています。

『二十四節気』とは、１年を２４に分けたもので、これをさらに３等分に分けたものを『七十二候』と言い、気象の動きや動植物の変化を教えてくれます。例えば、この夏至の期間ですと、６月 21 日頃は『乃東枯（なつかれくさかるる）』と言い、夏枯草の花が黒ずみ枯れたように見える頃のこと。６月２６日頃は『菖蒲華（あやめはなさく）』と言い、あやめの花が咲き始める頃のことを指します（ここでの菖蒲は花菖蒲のこと）。そして７月１日頃を『半夏生（はんげしょうず）』と言い、半夏（はんげ）という植物が生え始める頃を指し、田植えを終える目安とされてきたそうです。

夏至は、春分・秋分・冬至とともに、二十四節気の柱となっている日です。関西では夏至の日にタコを食べるという風習もあるようですが、関西以外の夏至の風習はあまり聞くことがない気がします。

日本にしかない『二十四節気』という季節の分け方を秋以降楽しんでみてはいかがでしょうか。（大瀧）

生き物　★ホタル★

この時期日没後に水辺で姿を現す生き物がいます。そう、ホタルです。ゆっくりと点滅しながら飛んでいる姿は日中の暑さも忘れさせてくれます。

今愛川ふれあいの村の近くではホタルが見られますが、それは人の手に支えられたものです。蛍が暮らせる環境には、水が綺麗であること、餌であるカワニナが豊富であることが必要です。松葉沢ホタル保存会の方のお話では、長い時間をかけて戻ってきたホタルを自然に返すために、「数を増やすためのホタルの養殖」から、「環境を整えるための取水口の清掃作業やカワニナの養殖活動」に移行しているそうです。

これから夏のレジャーシーズンが始まりますが、私も中津川で活動する際は、その水が自然環境に直接影響していることを忘れないようにしようと思います。（袖山）

写真提供：松葉沢ホタル保存会

旬　★収穫量は３分の１★

日本の伝統的な保存食の代表と言えば「梅干し」。原料の梅の実が今年は記録的な不作です。原因はズバリ、暖冬。全国の約６割を生産する和歌山を例にすると、梅の開花が 23 日も早かったようです。肉厚で美味しい南高梅はミツバチなど虫の力を借りて受粉します。ところが開花が早く、ミツバチの活性が低いため受粉がうまくいかず、結実しにくかったことが、主な原因です。収穫量が少ないと当然値段は高くなりますが、３分の１の量だからと値段を３倍にはできません。農家も消費者も不幸です。村の梅もほとんど実がありません。毎年作る梅ジャムとジュースはあきらめました。（髙梨）

来月の見どころ　カメムシマスターになろう

今年は、全国的にカメムシ注意報が出されている。神奈川県では果樹カメムシ類でチャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシの３種類でよく見かける種類である。

カメムシの名の由来は、形が亀の甲羅に似ていることから。ストロー状の口器で果物類を傷めている。今年は特にウメの実が傷つけられ出荷が減り値段が上がっている。これから梨やブドウの季節、害が少ないことを願っている。野菜もカボチャ、ピーマン、枝豆などが害にあっている。これは、今年のスギやヒノキの実が多く暖冬であったことなど環境の変化が影響しているようだ。また洗濯物に付着することも多くあり、害虫と呼ばれる事が多く種類数は約千三百種といわれている。

食肉性のカメムシを探してキリの木にいるヒメイトカメムシを見つけた。小さな昆虫を捕食する特徴を活かせば植物に害を与える昆虫を減らす益虫となることも考えられる。カメムシの不思議と疑問はまだまだ続く。（吉田）

チャバネアオカメムシ

ヒメイトカメムシ

発行者：神奈川県立愛川ふれあいの村　　写真・編集：吉田文雄・髙梨淳一・石川佳奈
TEL：046－281－1611　ＦＡＸ：046-281-3601